

福島における果樹農業6次産業化プロジェクト

(三菱商事復興支援財団)

【概要】

福島県内に果実の醸造・加工施設を建設。福島県の重要産業の一つである果樹農業分野で新たな6次産業化モデルを確立し、地域経済の活性化を図るとともに、獲得した事業ノウハウを広く伝達。

背景と経緯

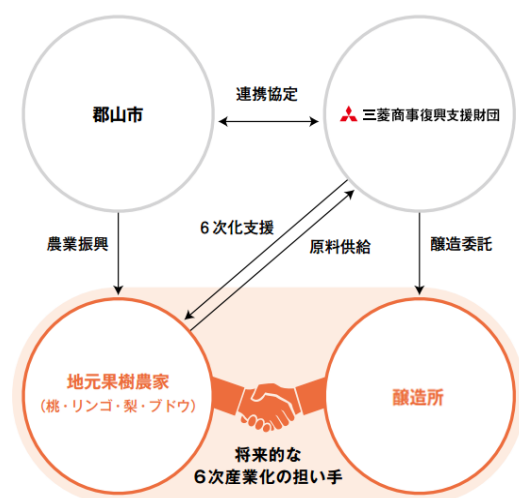
三菱商事復興支援財団ではこれまで、被災世帯の大学生への奨学金、被災地域で活動する非営利団体への助成金、被災地域の事業者への投融資を通じて、被災地の復旧・復興に寄与する支援行ってきた。他方で、被災地域の復興は道半ばであり、特に福島県の農業は、風評被害も含めた福島第一原発事故の影響を受け、東日本大震災前の事業環境を回復できない事業者が多く存在している。こうした状況を克服するためには、新たな事業モデルの確立が求められているが、個別の事業者が新たなチャレンジを行う経済的・技術的なリソースが十分とはいえず、多くの事業者が現状を打破できずにいる。

こうしたことから、当財団が個々の農家では負担することが難しい立ち上げ期の事業リスクを負担する形で、福島県内に果樹の醸造・加工施設を建設し、福島県の重要産業の一つである果樹農業分野で新たな6次化モデルを確立し、獲得した事業ノウハウを広く伝達する、という支援形態を新たな支援メニューに加えた。資金的サポートに特化してきたこれまでの立ち位置から一歩踏み込んだ形で支援を行うことで、被災地域の産業復興・雇用の創出により大きく貢献することを目指している。

具体的な取組

平成27年2月、郡山市と6次産業化、農商工連携、観光や地域産業の振興、地域資源を活用した商品開発に関して連携協定を締結した。

郡山市が逢瀬町に持つ土地を賃貸し、5月に着工して10月末に醸造施設「ふくしま逢瀬ワイナリー」（建物面積約1,400㎡）を完成させた。最大生産容量3万8千リットルの醸造タンクや蒸留機などを設置した。また、「ふくしま逢瀬ワイナリー」が福島県の産業や人を繋ぐ拠点になることを目指し、セミナールームを設けた。



事業の全体像

取組の成果

平成27年4月には地元農家と共にワイン用品種のブドウを植栽し、8月には伊達市の農家から桃を、9月には郡山市の農家から梨を調達し、搾汁した。12月には福島市や郡山市の農家から林檎を調達した。平成27年度はワイン用ブドウについては会津若松市の農家からマスカットベリーAを調達し、醸造を開始。平成28年3月に初出荷を予定している。



醸造施設外観



製造タンク室



蒸留機



ワイン用ブドウの苗木の植栽



桃の収穫



郡山市での和梨の収穫



桃の出荷



梨農家との打合せ



桃の搾汁

今後の課題

ワイン用ブドウの生産を新たに開始する農家の育成のほか、商品開発、販路の開拓を行い、地元で長く愛されるブランド構築を目指す必要がある。

本プロジェクトを通じて、地域経済の活性化を促進し、福島県をはじめとした被災地の復興を力強く後押ししていく。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① 郡山市等の行政との協力、財団の体制強化などのプロジェクト実施体制の構築

支援実施のポイント② 地元農家と関係を深め、協働する関係構築